

ちよつとためになる干支の話

ヒノトリ

来年の干支「丁酉」ってどんな年

順序を表す10種の漢字「十干」と「十二支」を組み合わせてできた暦「干支」は、全部で60種類。来年の干支「丁酉」にまつわる、ちよつとためになる話をご紹介します。



丁酉はどんな年？

「酉」の字は、酒つぼを表しています。酉が旧暦8月、果実が熟してきた酒を作る時期にあたるため、この字が使われたそうです。

このことから、「酉年」は物事が頂点まで極まる年と言われます。

また、「酉」のつく年は、運氣やお客を「取り」込むことから、商売が繁盛する年とも言われます。

ここで、忘れてはいけないのが、十干の「丁」。中国の陰陽五行の考え方に倣うと、「丁」と「酉」は火と金の関係にあり、「火が金を溶かしてしまい、物事が順調に進まない」とする説と、「火が金を溶かすように、相手に打ち克つ」とする説があります。

来年は、大きな壁にぶつかり、物事が思いどおりに進まないこともあるかもしれません。

しかし、その壁を乗り越え、自分やライバルに打ち克てば、今まで頑張ってきた仕事や学業の成果が実を結ぶ年になるかもしれません。

60年前の丁酉にタイムトリップ！

干支は60種類あるので、60年で一巡りします。数え年61歳を「還暦」というのは、このためです。

60年前の丁酉は、1957年（昭和32年）。この年、日本やこの町では、何があったのでしょうか。新しい年を生きるヒントを探しに、タイムトリップしてみましょう。



岸本町では

- ・新庁舎完成（現在の田中外科医院前）
- ・有線放送電話施設工事の着工（翌年完成）
- ・役場の八郷支所、幡郷支所を廃止
- ・酪農組合協議会発足

溝口町では

- ・新庁舎完成
- ・池田橋完成
- ・榊水高原に国民宿舎
- ・「大山高原ホテル」完成
- ・二部公民館焼失

日本では

- ・岸信介内閣成立
- ・コカ・コーラ、日本で販売開始
- ・東京都の人口がロンドン抜き世界一に
- ・茨城県東海村原子力研究所に初めて原子の火、点火
- ・5千円紙幣（聖徳太子の肖像）、100円硬貨登場
- ・NHK・日本テレビがカラーテレビ実験放送開始

★おまけ★

1957年（昭和32年） こんなものが流行っていました

<流行語>

デラックス、ストレス、パートタイム、なべ底不況、留年、「くしゃみ3回ルル3錠」、「ケ・セラ・セラ」、「神様・仏様・稲尾様」、「なんと申しましょうか」

60歳以上の人に聞いたら、分かるかも♪

<ヒット商品>

ホッピング、軽三輪自動車ダイハツミゼット、電気やぐらこたつ、ポリバケツ、自動鉛筆削り器シャープナー、ウテナ男性クリーム



<流行歌>

バナナ・ポート／浜村美智子、港町十三番地／美空ひばり、チャンキキおけさ／三波春夫、有楽町で逢いましょう／フランク永井

